

(別紙2)

②実績報告時に提出

介護ロボット使用状況報告書

令和2年2月10日

| | | |
|---|-------------------------|-----------|
| 法人名 | 機器導入事業所名 | 施設の種別 |
| 社会福祉法人 翠燿会 | 特別養護老人ホーム グリーンヒル八千代台 | 特別養護老人ホーム |
| 介護ロボットの種別 | 介護ロボットの製品名 | |
| 排泄支援 | Dfree | |
| 介護ロボット導入時期 | 導入台数 | |
| 令和2年1月30日 | 1台 | |
| <p>【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】</p> <p>※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。</p> <p>排泄ケアの正しいタイミング（空振りや横漏れ等）がつかめない、方々に使用し、パッド（おむつ）内失禁数の改善・尿が溜まったことを確認してからの介助し個々の適切なタイミングでの排泄介助し、24時間シートへ日々の利用状況等を記載し、月1回の生活向上委員会で、排尿タイミングを把握・分析をして個別の排泄ケアにつなげる。</p> | | |
| <p>【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】</p> <p>※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。</p> <p>フロア会議等において排泄リズム（周期や傾向）においてタイミングがつかめていなかった方へ蓄尿量を確認し、Dfreeにより確認を行って失禁前の誘導に繋げ、定時でのトイレ誘導をやめ、適切なタイミングで排泄を行ない24時間シートへ記載して生活向上委員会で分析することで、個別の排泄ケアを可能とし、トイレ誘導に係る時間を短縮し、他業務を行うための時間に充てる。</p> | | |
| <p>【介護ロボットの不都合な点】</p> <p>※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。</p> <p>使用方法においては手順も明確で操作しやすく、タブレット端末にて状況確認がグラフできるので見やすいが、Dfreeが下腹部に設置するため利用者さんの状況によっては違和感等感じてしまう方がいる。</p> <p>職員がタブレット端末等を使用してアプリを使用していく段階で操作方法をすぐに認識して使用できる職員とできない職員と差が出てきてしまい使用のための説明会が何度か必要となると考えられる。</p> | | |